

書写の学習内容の確認 「書写の要素」から

山梨大学教授

宮澤 みやざわ正明 まさあき

国語科書写の授業時数は、小学校では年間三十単位時間程度、中学校では国語科の授業時数に対して第一学年が十分の二程度、第二、三学年は各十分の二程度となっています。

この配当時間の中で、書写の目標である「文字を正しく整えて速く書く」ことをめざすことになり、生徒がこの目標を達成するために、指導者は合理的で効率のよい授業を工夫することが求められます。

そこで、書写の指導にあたっては、書写の学習内容が総合的に把握され、しかもそれらが有機的に関連していることを押さえた上で実践する必要があります。

文字を正しく整えて速く書くために必要な事項をあげたものに、「書写の要素」といわれるものがあります。これらの要素は、小・中学校の国語科書写ですべて学習するもので、書写の学習内容といつていただけます。

次に、「書写の要素」をすべてあげてみましょう。

これらの要素は、それぞれが独立して存在するのではなく、書写の学習によつて育まれる情意面や、各要素の知識・理解も含んで、一つの体系の中で密接に関係し合っています。字形を整えて書けない、筆使いがうまくいかない、紙面の余白をつまくとれないなどは、それ以外の要素に起因する場合があります。

例えば、次のようなことが考えられます。

字形と姿勢

文字の中心が傾いて、字形が整にくい場合、書く姿勢に問題があることが多い。

筆使いと用具

終筆のはねや払いの筆使いがうまくいかない場合、毛筆の種類や手入れが不適切であったり、墨の濃度や分量が不適切であったりすることがある。

配列・配置と文字の大きさ

行間や紙面の余白を適切に生かして書くことができない場合、文字相互の大きさや、紙面に対する文字の大きさに問題があることがある。

このように、「書写の要素」はそれぞれが密接不離の関係にあるので、書写の指導にあたっては、「書写の要素」

姿勢・執筆

文字を書くときの姿勢や筆の持ち方

用具・用材

文字を書くのに必要な用具・用材

筆使い

点画を書くときの筆の使い方

筆順

文字を書くときの点画の構成順序

字形

点画や部分を構成してできる文字の形

速さ

文字を書くときの速さ

大きさ

文字相互の相対的な大きさ

配列・配置（字配り）

文字、文、文章を書くときの行や紙面との関係における文字の並べ方

書式・形式

社会生活で用いられる文書の書式や形式

文字の適否の弁別

書かれる文字、書かれた文字の適不適を判断する能力

を常に念頭に置いて適切な支援・助言をしたいものです。大学生に小・中学校時代の書写の思い出を聞きますと、書き初め展で受賞したこと、書道の塾に通っていたことだったのでうまく書けず気が重かったこと、花丸をもらって嬉しかったことなどの答えが活発に返ってきます。しかし、書写で何を学習してきたのか、その具体的内容を聞くときに急に言葉に窮してしまいます。点画の名称、画間・接し方・組み立て方など字形の要素、行書の特徴などをたずねるとキョトンとしてしまつのです。

このことから判断できることは、むしろつけあしつけ書写の授業の記憶や思い出はあるものの、彼らとしての書写エピソードは、書写の学習内容とは直接結びついておらず、残念ながら書写の知識があまり獲得されていないことを意味します。

先にあげた「書写の要素」を常に言葉に出して支援・助言し続けることが、書写の知識・理解、技能を総合した書写力となって日常化に結び付くのだと確信します。

授業後、こんな生徒の独り言を期待したいものです。「今日の書写の授業おもしろかった。行書の特徴や書き方を学んだら今までよりちょっと速く書けたみたい。今度、行書の省略を使って書いてみようかな。」